



令和4年1月27(木)
縄瀬 保育園
池之上 俊江
NO. 17

結果より過程が大切です。

登山家の野口健さんがある番組で、「僕は楽をしたい、自由に好きな事をしたくて登山家になった。しかし自由ほど辛くて過酷なものはないと気づいた。どんな時も自分自身の決断や責任がついてくる。人のせいにもできない、誰も指示をくれない。どんな時も自分との戦いである。」と話していました。子ども達の遊びも同じです。自由＝ただ遊んでいるだけの様ですが、自分が選択した遊びにはつねに決断と責任ついてくるのです。ある4歳児の男の子が、木工コーナーでのこぎりを使っている際に、指を少し切って血が出てしまいました。ですが、指を見せに来た彼の顔に涙はありません。「痛かったね。少し油断したかな？」と話すと強く頷きます。更に「次は油断しないで使えるね。」と言うと、少し笑って頷き帰っていきました。刃物を使う時は油断してはいけないと身をもって学んだのです。大人が危険を知らせる事も大切ですが、子ども自身が経験する事で絶対に忘れません。刃物や火、水と生活に欠かせない物は便利ですが、しかし危険も隣り合わせなんだという事も、大人が火を焚く姿や道具を使う姿から学び、自らも経験してほしいと思っています。

三度目で見事エベレスト登頂に成功した野口さんですが、二度の登頂失敗の時は、批判が多かった様です。「登ったら成功、下山したら失敗というが、そんな薄っぺらなものではない。その過程は見てくれないのか・・・」と感じたそうです。子ども達も遊びの中で様々な事に挑戦します。時には友だちともめたり、悔し涙を流したり、成功を喜び合ったり、途中で諦めることもあります。その諦めも本人が決断した事です。またいつか挑戦する日がくるまでその子に寄り添って待ちたいと思います。大人になると、結果ばかりに目がいきがちですが、私達は結果より子ども一人ひとりの過程に目を向ける保育をしていきます。

ついにツリーハウスが完成！！

待ちに待ったツリーハウスに朝から挑戦しますが、手をかける位置が高く苦戦する子ども達。背の高い5組は、木のてっぺんにジャンプして手をかけると登れると発見した様です。手はかけられたものの自分の体を引き上げるには腕の力が必要です。どこが登りやすいかと観察し、ルートを考えます。5組の男の子が腕の力であがれたものの、足をかける事に気がつくまで数日かかりました。大人が足をかける場所を教えたり、手をかせばもっと早く登れたのかもしれませんが、周りの大人は近くで黙って見守ります。自分自身で発見した気づきは記憶に残り、身体が覚えています。遊びは「自分の力で」が縄瀬保育園の約束です。手を貸してとも言わず、繰り返し挑戦する姿は逞しさそのものです。ツリーハウスからの景色は絶景です。景色を上から見たい！と目標に向かう子ども達のドラマが続きそうです。

子ども達のブームはチャンスです。

2歳児の乗り物好きなI君が「これ読んで」と絵本を持ってきました。道路工事の車を紹介する絵本ですが、「これはゆあつショベル。モーターグレーダー」と難しい車の名前をすらすらと答えていきます。車体やタイヤの数、ショベルの大小で見分けている様でした。観察力と記憶力の高さに驚きました。I君はこの絵本がお気に入りです。繰り返し読んでもらったり、自分でもソファでよく見ている様です。2歳児クラスからは、子ども達が自由に絵本を楽しめる様にディスプレイしてあります。車に興味がある今の時期だからこそ、繰り返し読んでもらった本を忠実に記憶できるのです。この記憶は、今後I君の自信となっていく事でしょう。子どもが求める時期に、ゆっくりと関わる大人が近くにいる事で安心できます。子ども達が安心して過ごせる環境を今後も作っていきたいと感じました。